

フューチャーセッションを活用した製品開発法

○森 豊史^{*1)}

1. 目的・背景

ものづくり中小企業の技術＝知的資本を活用するための知識経営（ナレッジマネジメント）の思考フレームワークツールとして、デザイン技術の重要度が増している。

大企業に対して資本力に劣る中小企業にとっては、従業員の知恵や経験、技術の質といった知的ポテンシャル＝知的資本こそが最大の武器であり、無形資産である。

知識経営とは、これらの企業の知的資本を発見、蓄積、交換、共有、創造、活用を行うプロセスを体系化し、マネジメントするものである。具体的には、組織内に「暗黙知」として存在する知的資本を「形式知」に変換することで、知識の共有とマネジメントを行う。

これら知識マネジメント技術の一つとして、デザイン思考（Design Thinking）が有効であるとされ、1970年代以降、多くの企業で活用されている実績がある。

中小企業への開発支援として、本事例では、企業が未来に知的資本を創造するためのデザイン思考のフレームワークに、大企業への普及が著しい「フューチャーセッション」方式を採用し、中小企業向けにフレームを組み直した上で実施した。

フューチャーセッションとは、組織内の暗黙知＝知的資本の共有から、想定の外にある機会領域を発見して、未来を主体的に創造するシナリオを構築する設計思考法である。

2. 実施内容

（1）概要

短時間、少人数での実施を可能とするため、①参加者の集合記憶体である仮想人格を媒体として暗黙知の共有を行い、②人的資本、構造的資本、関係性資本について機会領域を探索・発見、③未来ビジョンを事業構想の形式知として具体的にシナリオ化し、共有する。

（2）実施方法：オーダーメイドセミナー（図1）

ワーク0：未来を予見する技術情報の事前収集

ワーク1：未来市場（事業想定）の設定

ワーク2：仮想人格を用いた暗黙知の抽出と共有

ワーク3：機会領域と未来ビジョンを形式知化

ワーク4：具体的なシナリオとして共有化（図2）

（3）実施の効果

- ・未来ビジョンから事業計画の意図を正確に共有
- ・異なるステークホルダー間での連携強化
- ・組織内での創造的な合意形成が容易になる



図1. オーダーメイドセミナー風景



図2. 暗黙知を形式知として共有

3. 実施成果

現在、製造業やITサービス業など数社で実施済みである。

開発計画の明確化と共有、組織内の高度人材育成に有効であると企業より高く評価されており、実施の継続や新規の要望が増加している。

*1)システムデザインセクター